

宿泊施設における外国人材の受入れ状況に関する 実態調査 概要

調査内容、調査方法

【調査内容】

- 宿泊分野の特定技能外国人材の確保促進に資する施策の検討を行うため、下記の内容等の把握を行う
 - ・宿泊施設における外国人材受入れの実態
 - ・宿泊施設の宿泊分野特定技能外国人の雇用意欲
 - ・宿泊分野特定技能試験合格者の日本の宿泊施設への就職意欲

【調査方法】

- 宿泊事業者、現在宿泊業で働いている外国人従業員、宿泊分野特定技能評価試験合格者に対するWEB調査

調査対象	調査時期	調査手法	使用言語	回収数
宿泊事業者	2025年2月5日～2月24日	WEB調査 (宿泊関係団体より調査URLを展開)	日本語	366
宿泊施設で働く外国人従業員	2025年2月5日～2月24日	WEB調査 (宿泊関係団体より調査URLを展開)	やさしい日本語、英語	98
宿泊分野特定技能評価試験の合格者	2025年2月27日～3月3日	WEB調査 (宿泊業技能試験センターより調査URLを展開)	やさしい日本語、英語	963

- 外国人材は人手不足の宿泊施設に貢献
- 特定技能外国人の雇用促進のために手続き面の周知等が効果的
- 特定技能試験合格者に対する求人情報の周知が必要

回答者の属性

○宿泊事業者について、種別は「旅館」(51.4%)、規模別は「10～30部屋」(29%)が最多。

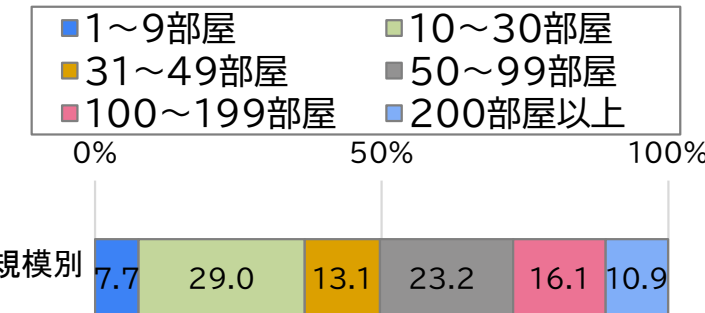
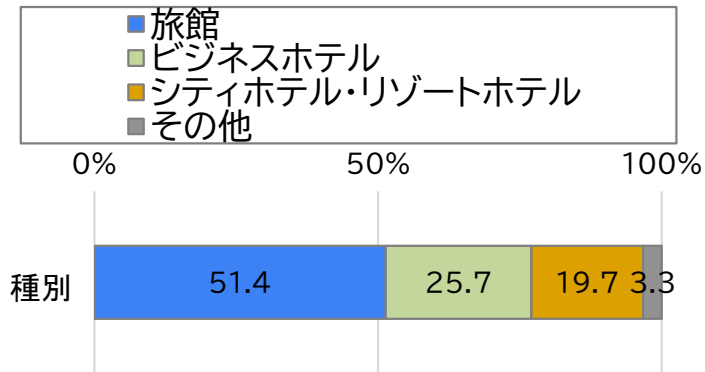
○外国人従業員について、在留資格は「技術・人文知識・国際業務」(46.9%)が最多。

「特定技能(宿泊)」は14.3%、「特定技能(外食)」は11.2%であった。

○試験合格者については、回答者が特定技能試験(宿泊)を受験した国は、「日本」が最多(41.7%)、次が「ミャンマー」(31.7%)であった。また、試験に合格した年については「2024年」(69.5%)が最多。

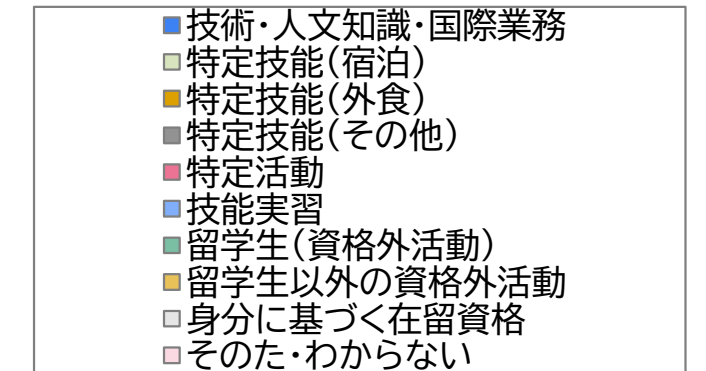
宿泊事業者

N=366



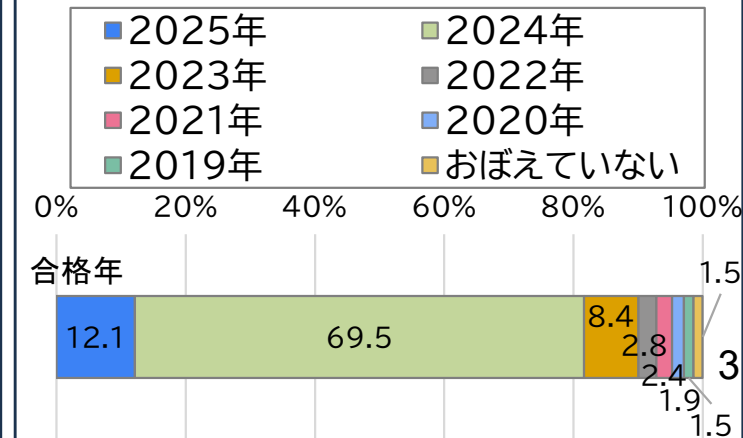
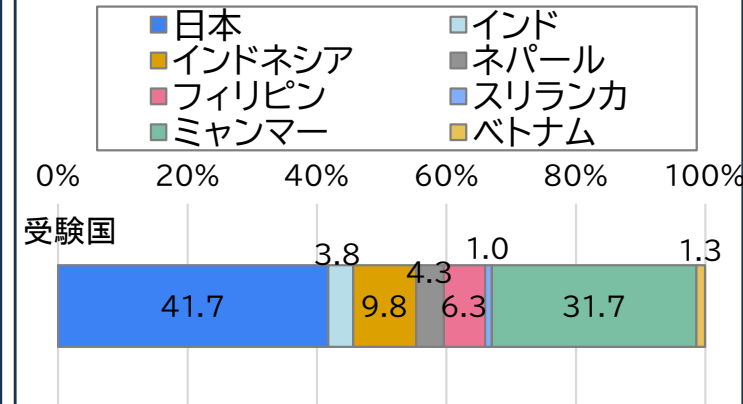
外国人従業員

N=98



試験の合格者

N=963

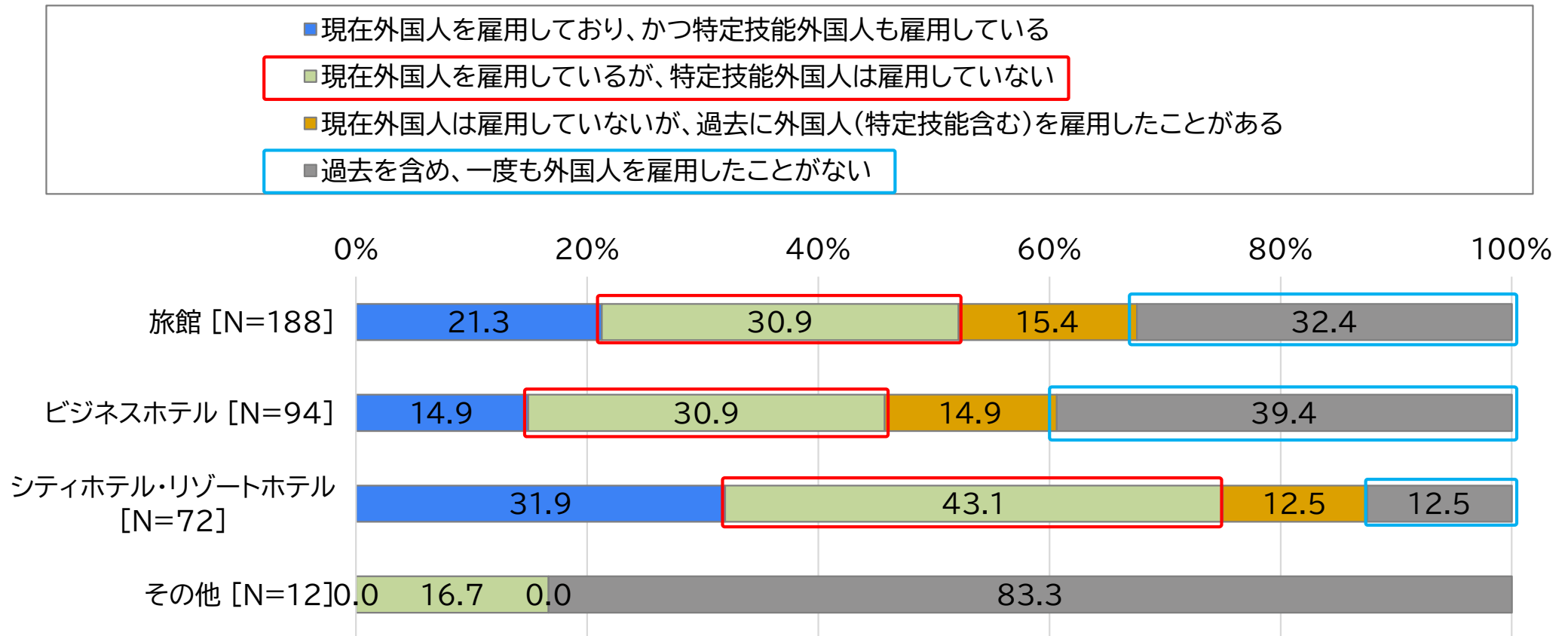


宿泊施設における外国人材受入れの実態①

○外国人材を雇用した経験がない施設も一定程度存在するものの、技術・人文・国際業務をはじめとした在留資格の外国人材が人手不足・外国語対応を目的として雇用されており、雇用した外国人材の日本語能力に課題はあるものの、就業パフォーマンスに対する満足度は比較的高い状況。

宿泊施設における外国人の雇用状況：

- ・宿泊施設における外国人材雇用については、「特定技能外国人以外の外国人材を雇用している」という回答が最多であった（旅館：30.9%、ビジネスホテル：30.9%、シティホテル・リゾートホテル：43.1%）。
- ・過去一度も外国人を雇用したことがないという回答は、シティホテル・リゾートホテルでは12.5%と低かったが、ビジネスホテルは39.4%、旅館は32.4%と比較的高い結果であった。

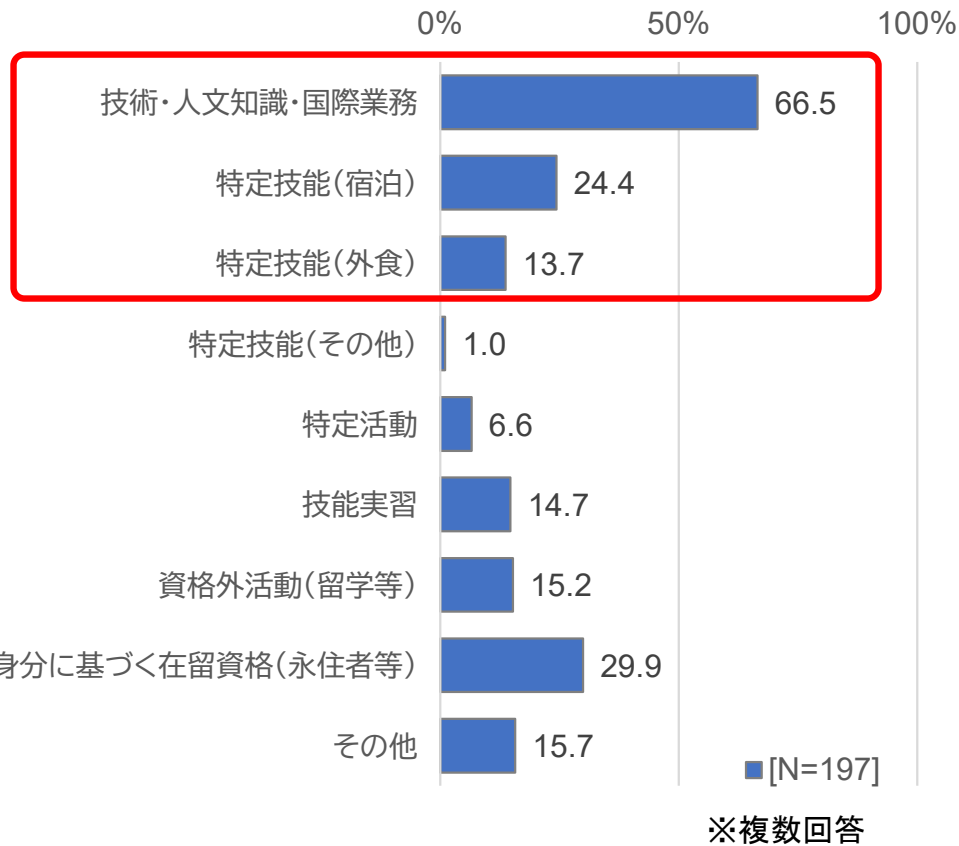


宿泊施設における外国人材受入れの実態②

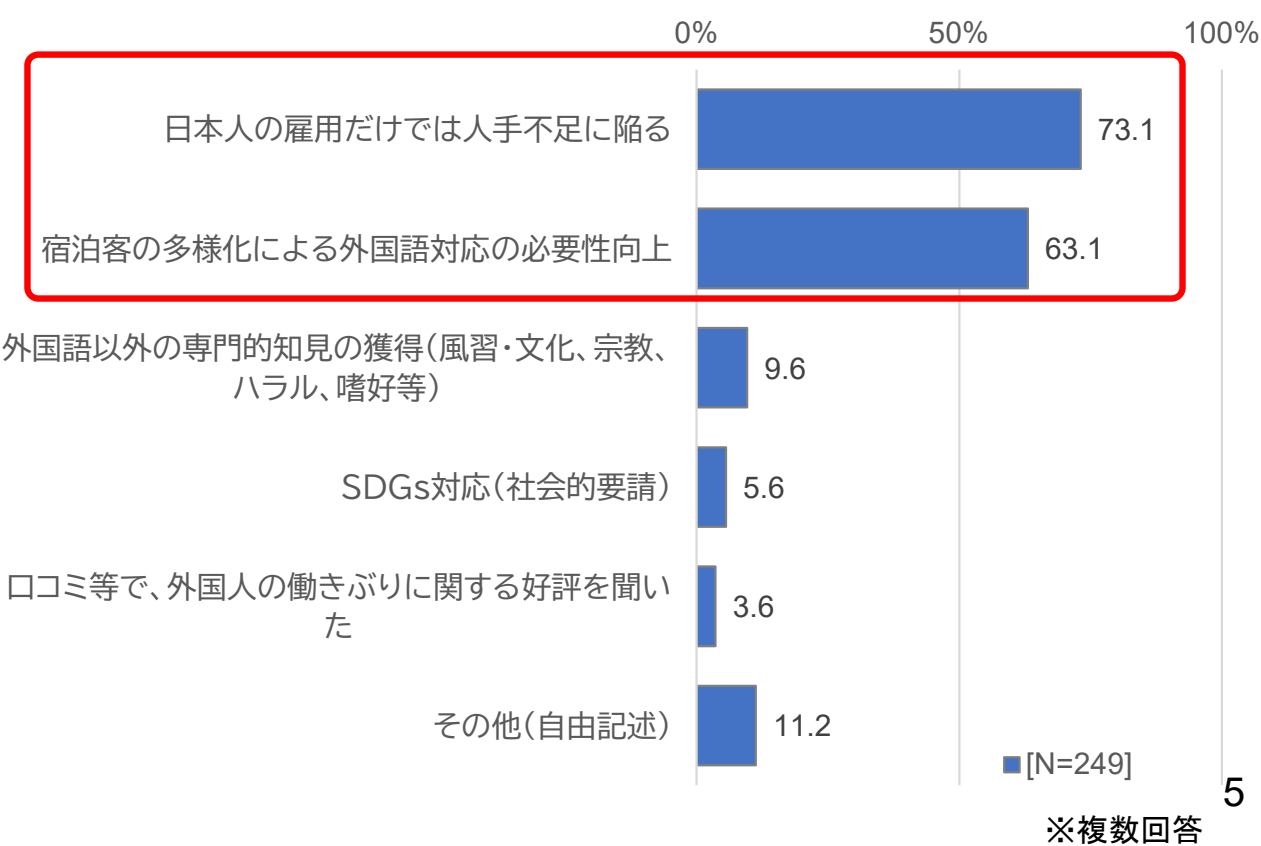
雇用している外国人の在留資格、外国人の雇用理由：

- ・外国人を雇用している宿泊施設について、現在雇用している外国人の在留資格は、「技術・人文知識・国際業務」(66.5%)が最多であった。「特定技能(宿泊)」は24.4%、「特定技能(外食)」は13.7%の施設で雇用しているとの回答であった。
- ・現在または過去に外国人を雇用したことがある宿泊施設の、外国人の雇用理由は、「人手不足対策」(73.1%)が最多であり、次いで、「外国語対応の必要性向上」(63.1%)が続いた。

宿泊施設で現在雇用している外国人の在留資格



宿泊施設で外国人を雇用した理由

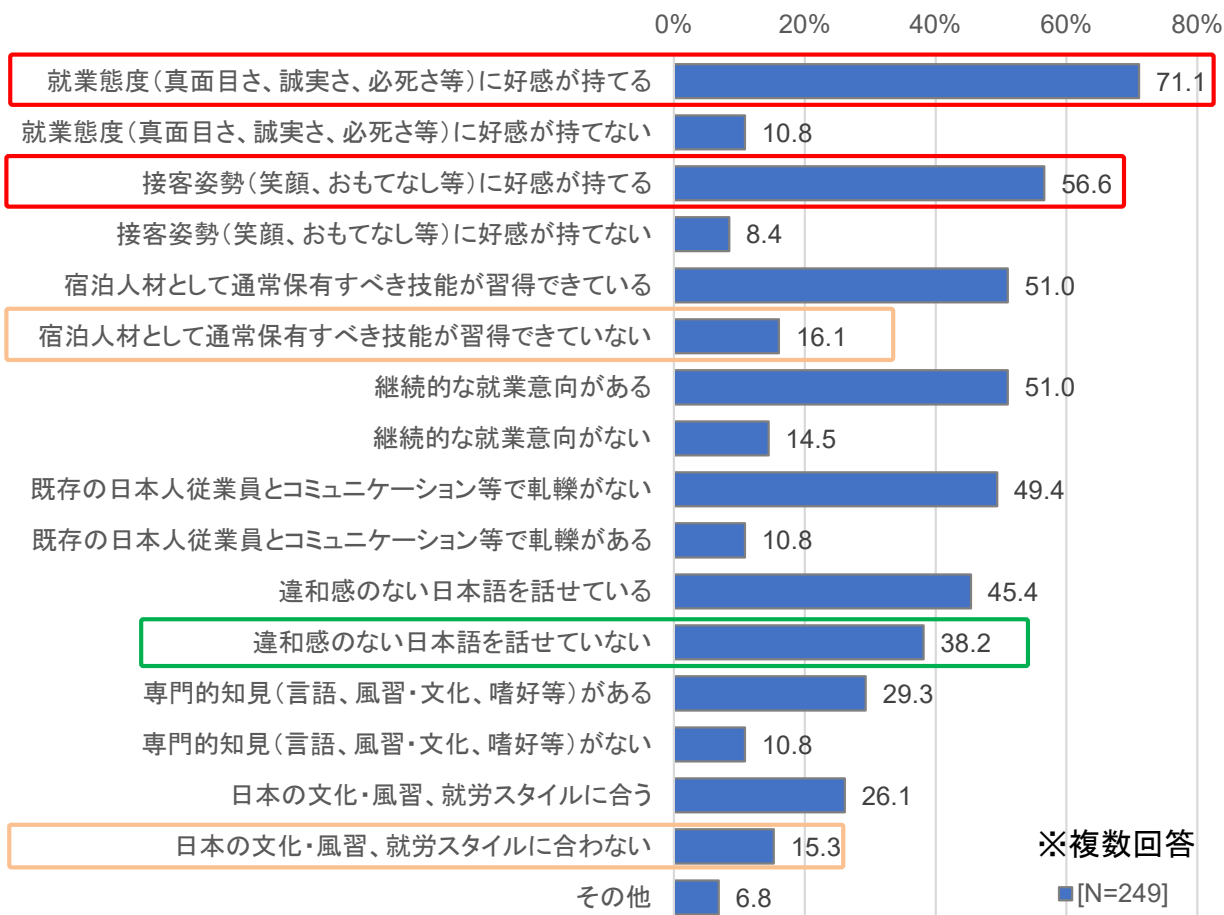


宿泊施設における外国人材受入れの実態③

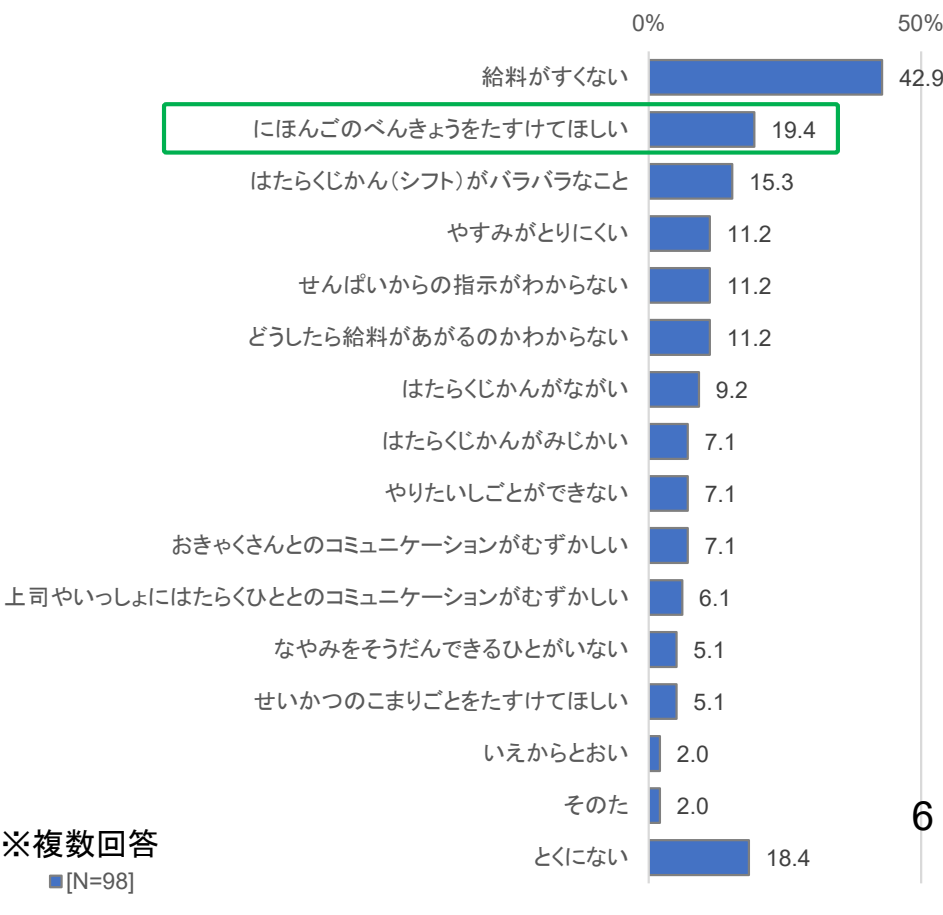
宿泊施設で雇用した外国人に対する印象(就業パフォーマンスの評価)：

- ・現在または過去に外国人を雇用したことがある宿泊施設に、外国人に対する印象(就業パフォーマンスの評価)を質問したところ、「就業態度」(71.1%)や「接客姿勢」(56.6%)等についての肯定的な意見が目立った。
- ・一方、「技能の習得不足」(16.1%)や「日本の文化・風習・就労スタイルへの不整合」(15.3%)等といった否定的な意見は比較的少なかったものの、「違和感のない日本語を話せていない」ことについては38.2%と、高めの割合となった。なお、外国人従業員の働くうえで感じている課題については、給料が少ないという意見が最多であったが、「日本語の学習支援」が19.4%と比較的高く、宿泊施設・外国人従業員両者にとって、日本語は課題となっている状況。

宿泊施設で雇用した外国人に対する印象



外国人従業員が働くうえで感じている課題



宿泊施設の宿泊分野特定技能外国人の雇用意欲①

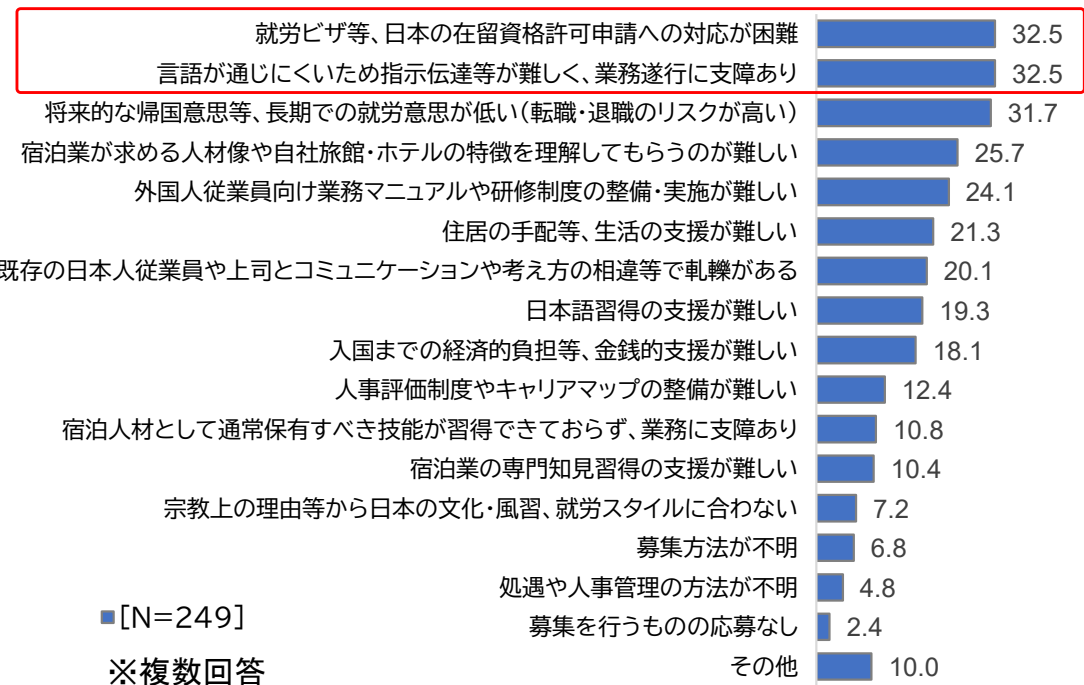
○外国人材の在留許可手続きや生活支援等に課題はあるが、現在特定技能（宿泊）を雇用している施設の、特定技能（宿泊）の雇用意欲は高く、手続き面の周知や、好事例の共有等が雇用を後押しする可能性がある。

なお、外国人材を雇用したい・さらに増やしたい施設は比較的多く存在（74%（271施設/366施設））しており、制度や外国語対応等の利点を周知することが外国人材の雇用を促進すると考えられる。一方、日本人の雇用で十分である等の理由で、外国人材を必要としない施設も存在（26%（95施設/366施設））している。

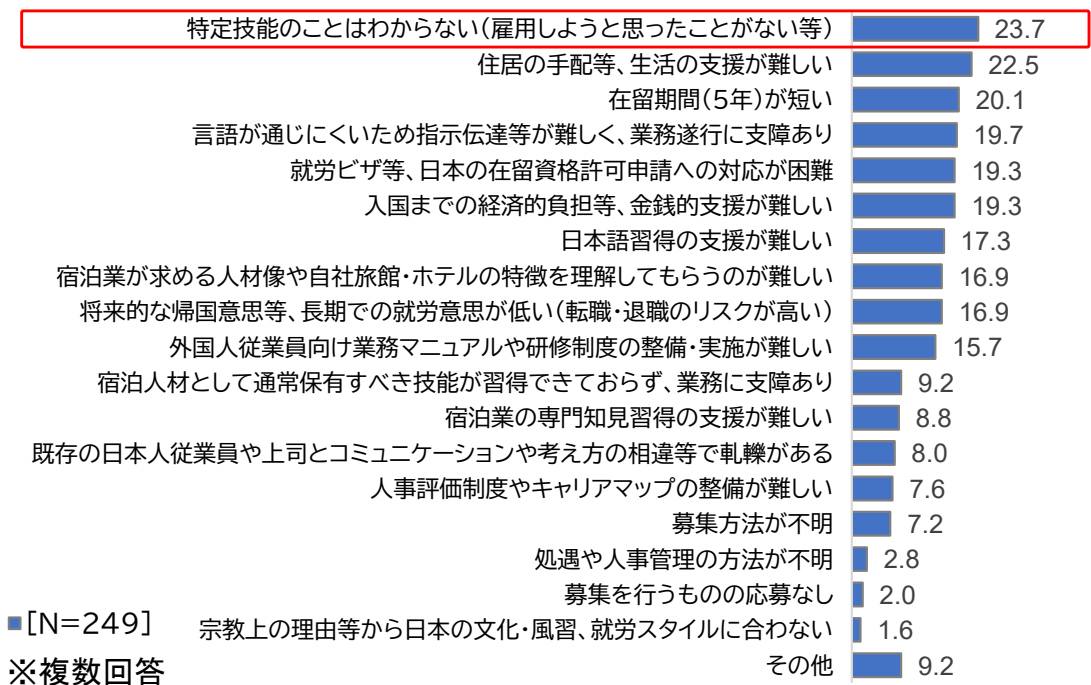
宿泊施設が外国人/特定技能外国人を雇用する際の課題：

- ・現在または過去に外国人を雇用したことがある宿泊施設について、外国人を雇用する際の課題は、「在留資格許可申請への対応」(32.5%)や「言語の通じづらさ」(32.5%)が最多であった。
- ・また、特定技能人材を雇用する際の課題については、「特定技能に関する認知不足」(23.7%)が最多であり、「生活の支援」、「入国までの経済的負担」、「募集方法が不明」といった課題に対する回答については、外国人全体の雇用課題に比べてわずかに多かった。

宿泊施設が外国人を雇用する際の課題
0%



宿泊施設が特定技能外国人を雇用する際の課題
0%

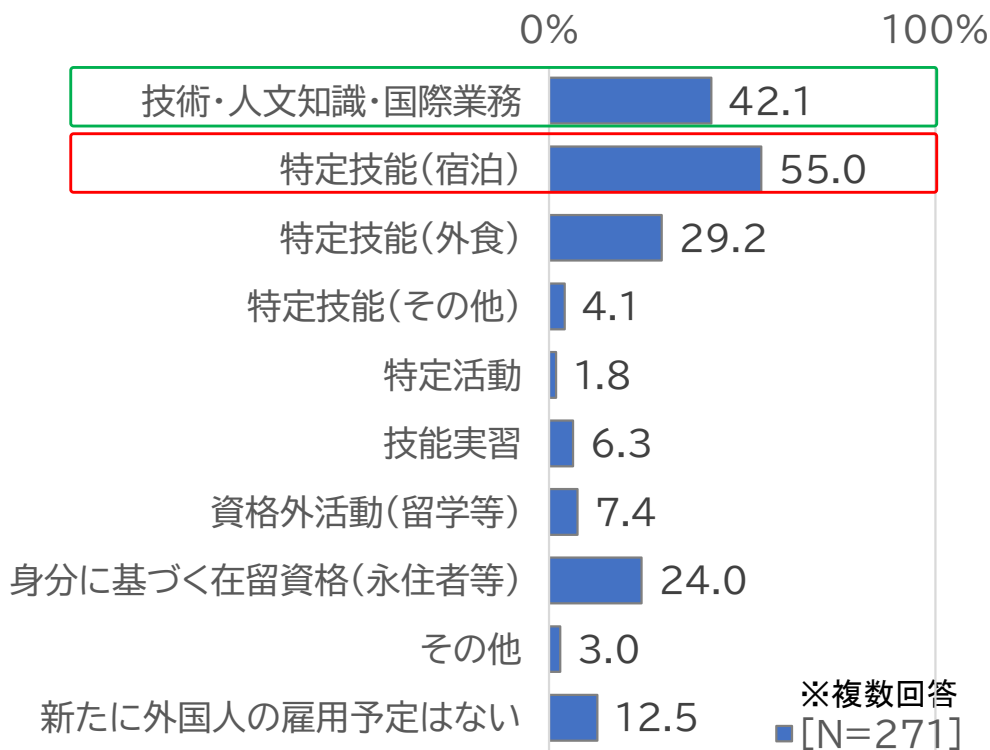


宿泊施設の宿泊分野特定技能外国人の雇用意欲②

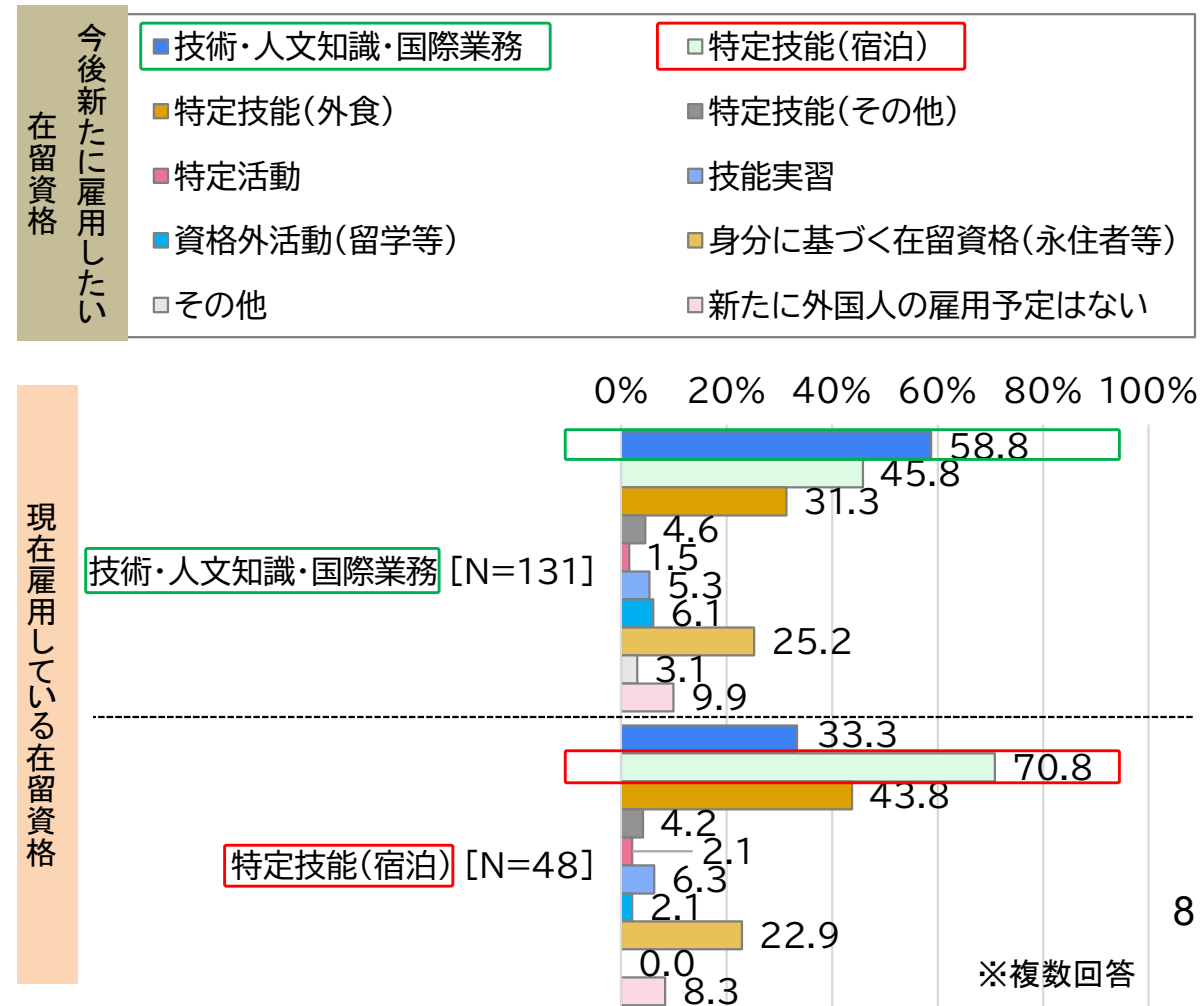
今後新たに雇用したい外国人の在留資格：

- ・外国人を雇用する意向のある宿泊施設に、今後新たに雇用を希望する在留資格を質問したところ、「特定技能(宿泊)」(55.0%)が最多となり、次いで、「技術・人文知識・国際業務」(42.1%)が続いた。
- ・また、現在雇用している外国人の在留資格と今後新たに雇用したい外国人の在留資格との関係性については、現在雇用している在留資格を追加で雇用したい施設の割合が大きかった。

今後新たに雇用したい外国人の在留資格



現在雇用している在留資格別の今後新たに雇用したい外国人の在留資格

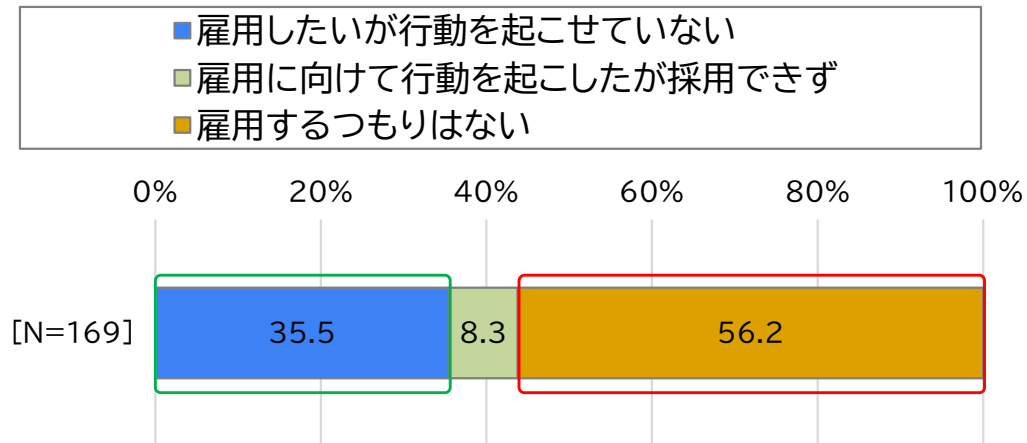


宿泊施設の宿泊分野特定技能外国人の雇用意欲③

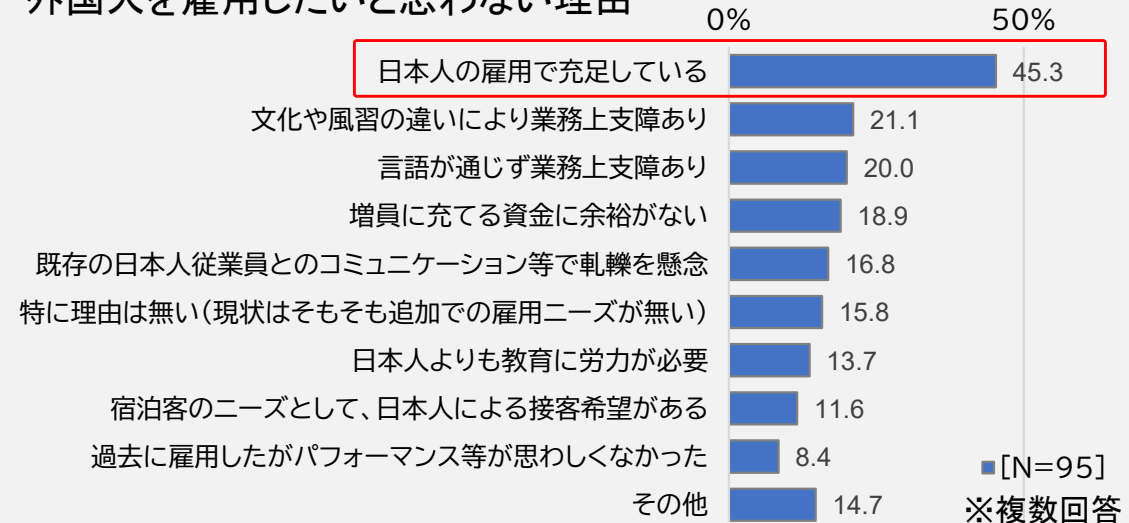
外国人を雇用しない理由：

- ・現在、または過去一度も外国人を雇用していない宿泊施設について、外国人を雇用していない理由は、「雇用するつもりがない」(56.2%)が最多となり、次いで、「雇用したいが行動を起こせていない」(35.5%)が続いた。
- ・外国人を雇用する意向がない宿泊施設について、外国人を雇用したいと思わない理由は、「日本人の雇用で充足している」(45.3%)が最多となった。
- ・また、外国人を雇用したいが行動を起こせていない宿泊施設については、「外国人の雇用ニーズは強くない」(46.7%)が最多となり、次いで「募集にかかる時間や人員の余裕がない」(31.7%)が続いた。

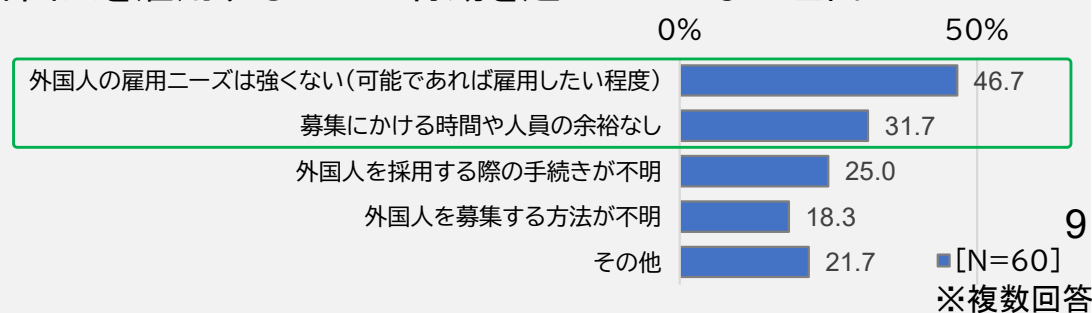
外国人を雇用していない理由



外国人を雇用したいと思わない理由



外国人を雇用するための行動を起こせていない理由

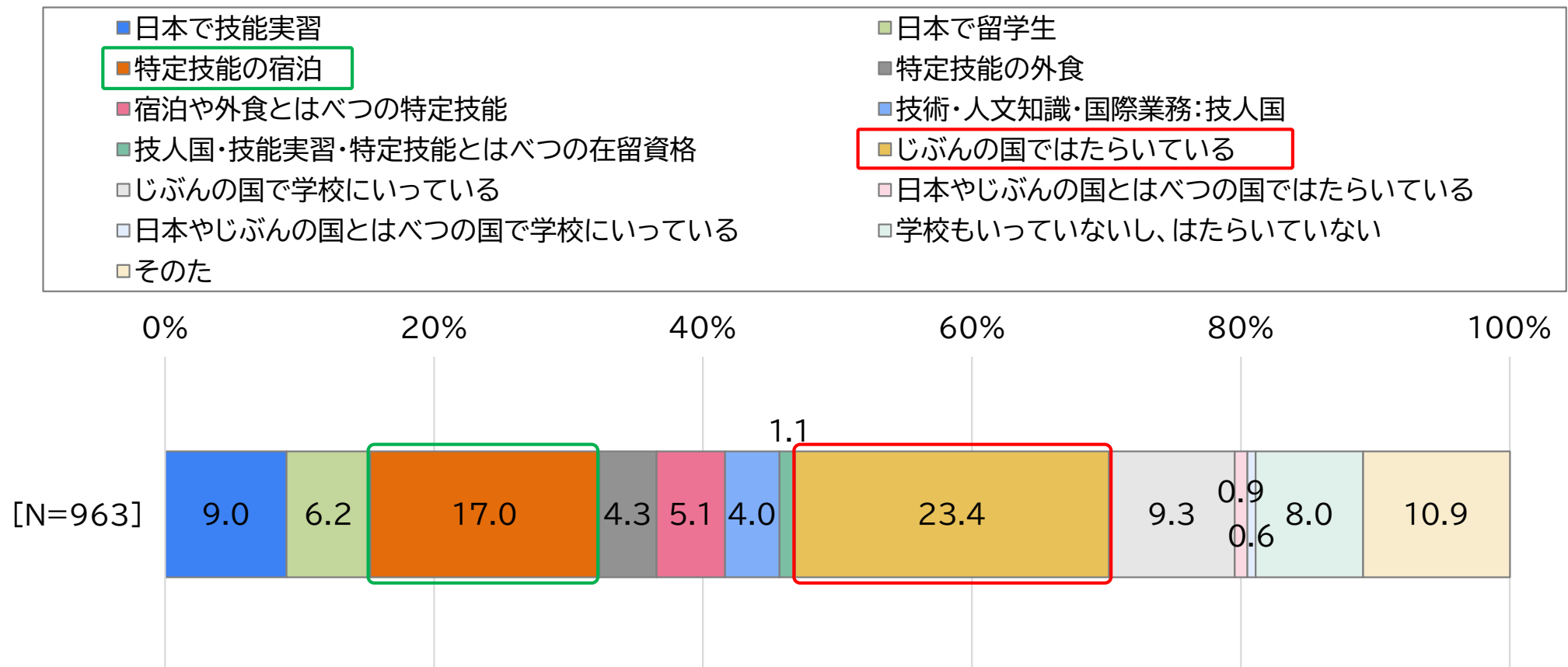


宿泊分野特定技能試験合格者の日本の宿泊施設への就職意欲①

○宿泊分野特定技能評価試験合格者の日本の宿泊施設への就職意欲は高く、日本語学校や送り出し機関を通じて、試験合格者に求人情報を効果的に周知する方法等、外国人材を求める施設と合格者を結びつける方策が必要。

試験合格者の現在の仕事：

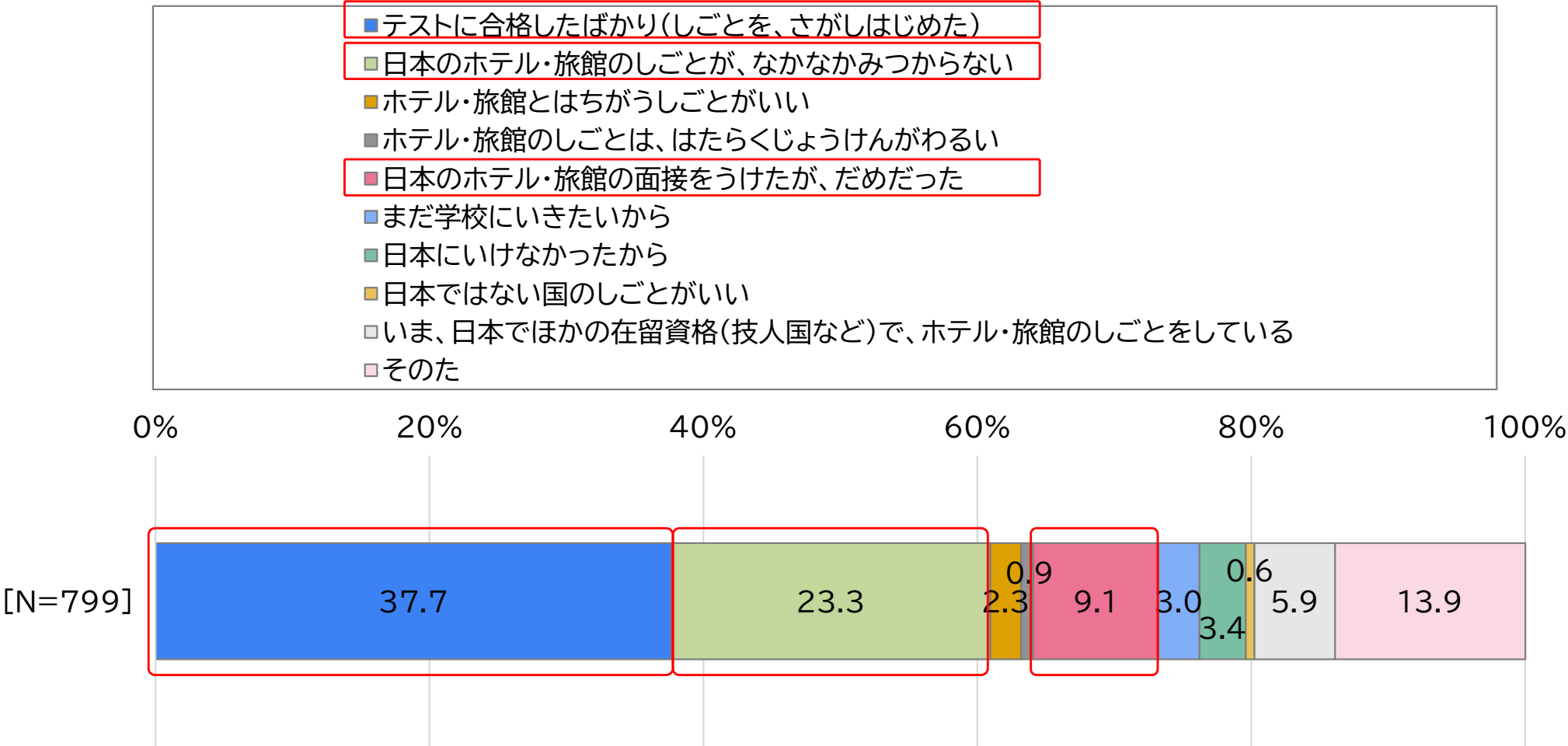
・ 宿泊分野特定技能評価試験合格者の現在の仕事（現在の在留資格等）について質問したところ、最も多いのは「自分の国で働いている」（23.4%）であり、特定技能（宿泊）で働いているのは17.0%であった。



宿泊分野特定技能試験合格者の日本の宿泊施設への就職意欲②

特定技能資格で日本の宿泊業で働いていない理由：

・現在の仕事として「特定技能の宿泊」を選択しなかった回答者の、特定技能資格で日本の宿泊業で働いていない理由は、「試験に合格したばかりで仕事を探し始めた」状況の者が37.7%で最も多く、「日本のホテル・旅館の仕事が見つからない」が23.3%、「採用面接を受けたが断られた」が9.1%であり、就業意欲があるものの、就職先が見つからない試験合格者が多数いる状況。

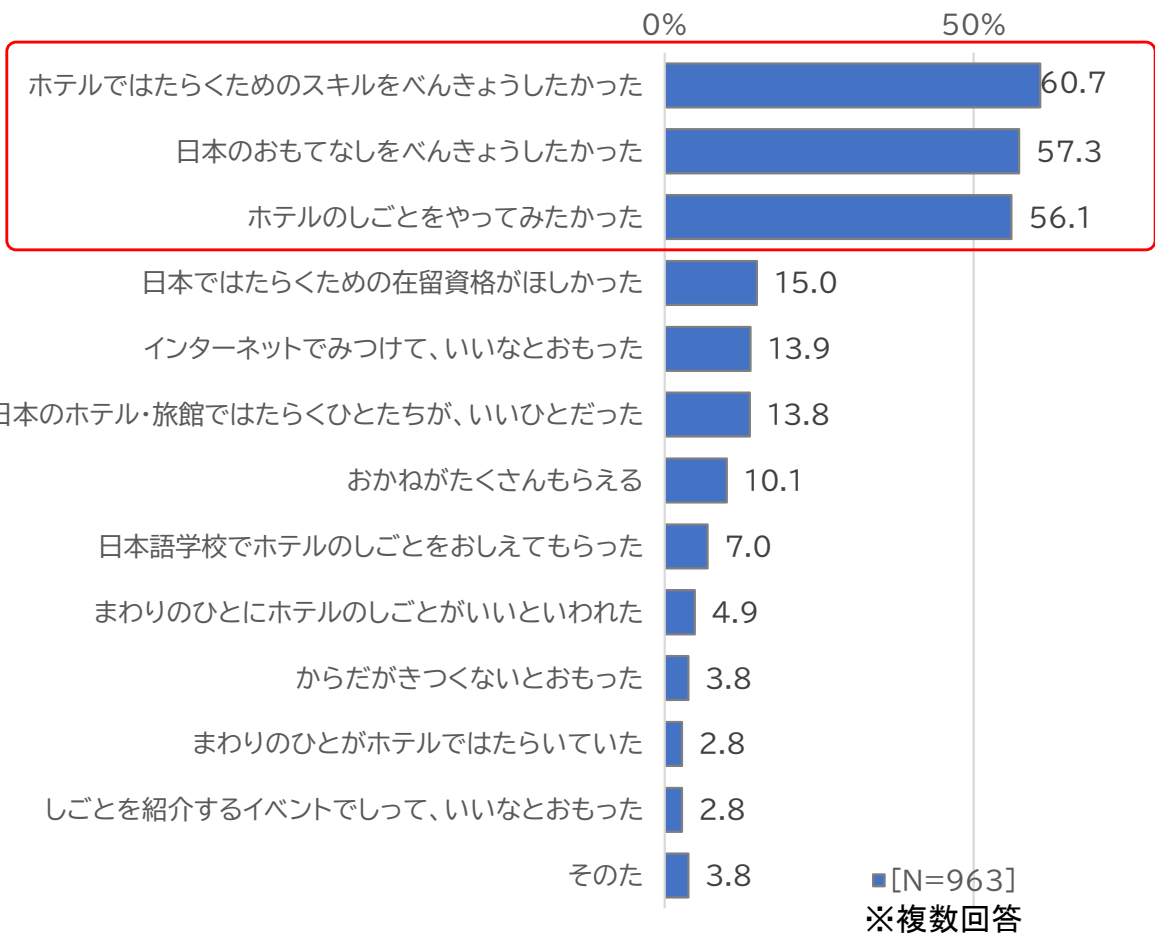


宿泊分野特定技能試験合格者の日本の宿泊施設への就職意欲③

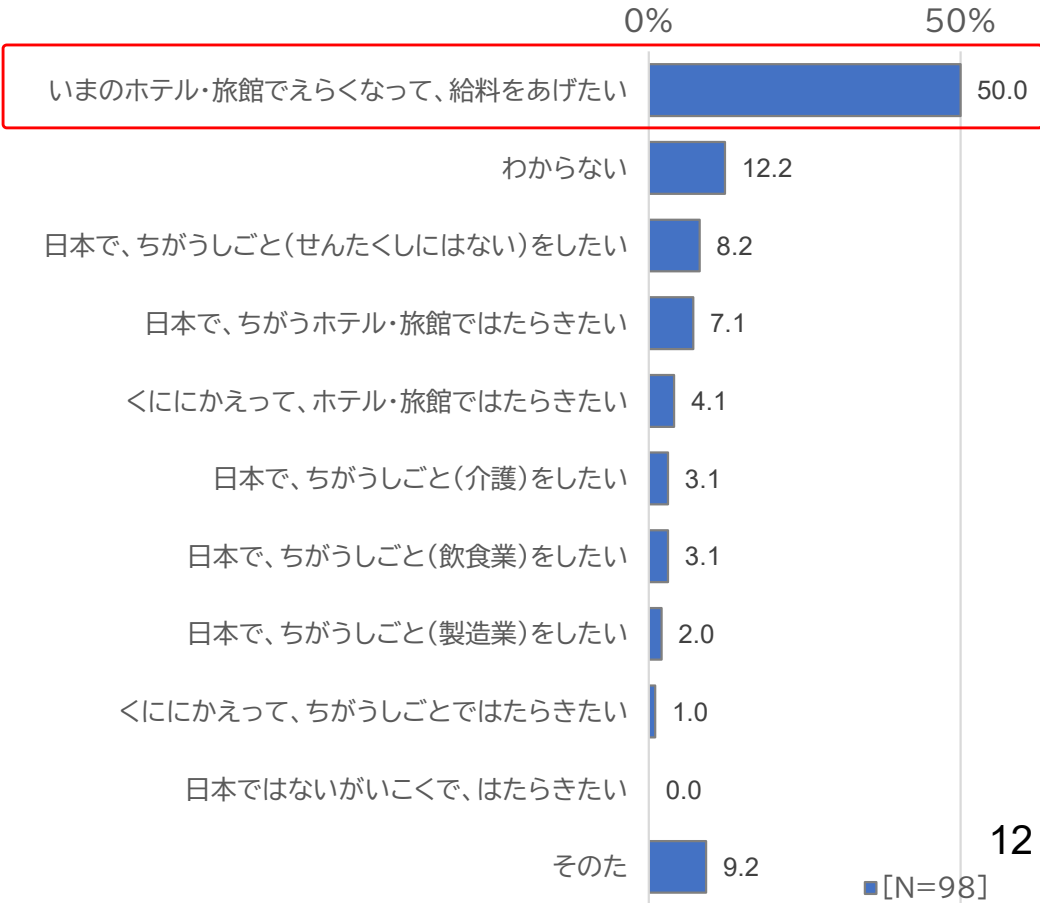
試験合格者の宿泊業選択理由/宿泊施設で働く外国人の将来展望：

- ・試験合格者が宿泊業を選んだ理由は、「ホテルで働くためのスキルを勉強したかった」(60.7%) が最多、次いで、「日本のおもてなしを勉強したかった」(57.3%)、「ホテルの仕事をやってみたかった」(56.1%)、となり、宿泊業への高い就職意欲がうかがえる。
- ・なお、現在日本の宿泊施設で働く外国人材の将来展望については、「現在の勤務先で昇格・昇給したい」という回答が50.0%と最多であり、宿泊業で働く外国人材の現在の職場での就業意欲は高い状況。

試験合格者が宿泊業を選んだ理由



外国人従業員の将来展望



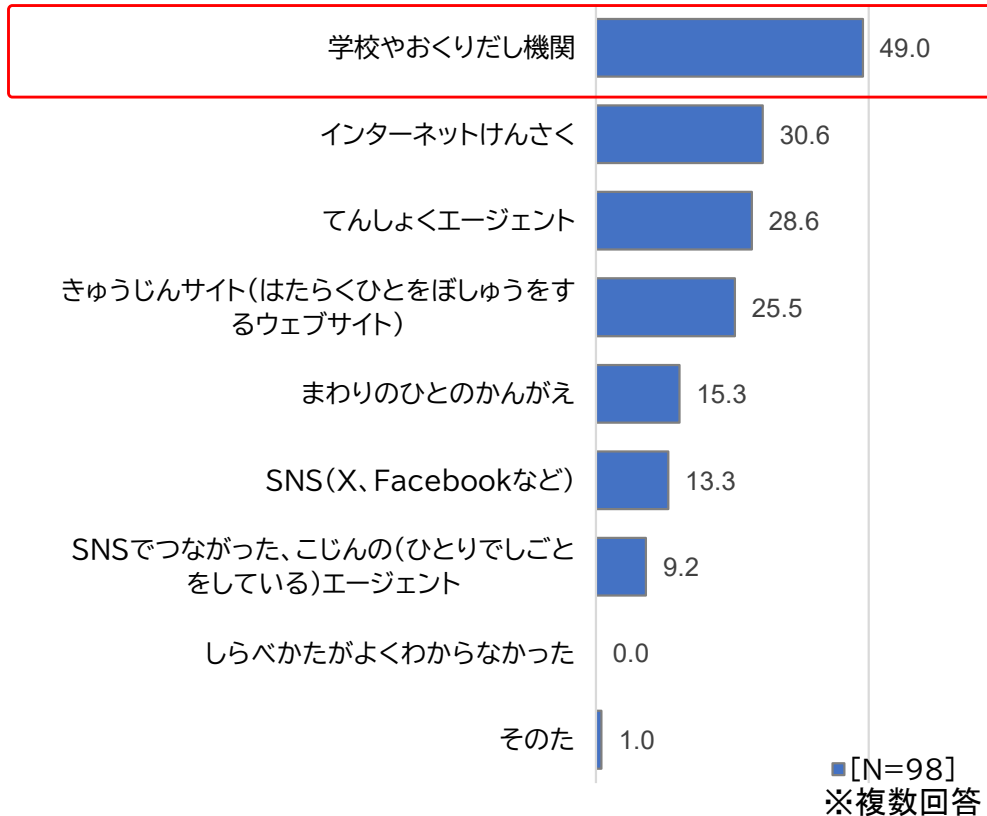
宿泊分野特定技能試験合格者の日本の宿泊施設への就職意欲④

求職時に参考にした情報ルート:

- 外国人従業員が求職の際に参考にした情報源は「学校・送り出し機関」が49.0%と最多であった。一方、試験合格者が就職先を探す際に参考に行っている情報源は、「インターネット検索」が44.0%で最多であり、「SNS」が39.4%、「学校・送り出し機関」が37.8%となっており、両者の回答には差がある状況。

外国人従業員

0% 50%



試験合格者

0% 50%

